

Apprire



秋田大学広報誌〈アプリレ〉

No. 33
2011

特集

就職最前線

—いま「就業力」とは—





特集 就職最前線 —いま「就業力」とは—

秋田大学で学んだ学生たちが、次のフィールドをどこに求めるのか。社会は学生たちに何を求め、期待しているのか。この春に秋大を巣立った学生たちの就職率(就職希望者のうち)は95.4%だった。数値だけでみれば、大半の学生が職に就いた、とみることもできる。しかし、その実態はどうなのであるか。望んでいた「職」に就けたのか。本意ではない道を選ばざるを得なかった学生は、一体どのくらいの人数なのだろうか。就職を巡る環境の厳しさが当面、劇的に好転するという情報はない。そんな中で大学は、学生は何をすべきなのか。今回のアプリールでは「就業力」を考え、てみた。もがきながらも、秋大が真っ向から取り組んでいるテーマである。

就職活動の現状と課題

平成22年度秋田大学卒業生・修了生の就職希望者の就職状況がまとめられました。それによると、全学の就職希望者の就職率は95.4%で、全国国公立大学の平均を約2%上回りました。就職率は産業経済動向や社会の雰囲気左右されますが、ここ数年続いている景気の低迷が依然として就職率に反映していると思われまます。一方、3月11日に東北・関東地域を襲った東日本大震災やその後の福島原子力発電所事故に象徴されるように、今年の就職状況は非常に厳しいと言わざるを得ません。

平成19年に経済産業省から報告された「企業の求める人材像調査2007」から「社会人基礎力」の12の能力要素(図1参照)を眺めてみましょう。この調査は、著名企業、中堅企業合わせて684社の回答をまとめたもので、企業が若手人材に期待する基礎的能力を調査したものです。この社会人基礎力を見ると採用活動の際に企業が考慮する点がほぼ見えてきます。多くの企業の人たちには、秋田大学(東北地域)の学生は、「考え抜く力」や、「チームで働く力」に優れているが、「前に踏み出す力」が多少弱いと思われるようです。しかし、このことは正確ではなく、地域的ハンデによる情報量の差や、就職活動経験数の差にあると思われる。秋田地域が東京と比較し、地域的ハンデがあることは仕方がないことですが、その

延期していますが、やはり厳しい状況です。

ことを理解した上で、対応をとりさえすれば、前述の「考え抜く力」や、「チームで働く力」を更にアピールすることができると思われます。

石尾 俊一

変化への適応能力＝就業力

著しい変化と多様化する環境の中、企業などの組織は生き残りをかけ、様々な課題に取り組んでいます。今、社会や企業が期待するのは、その解決を図ることのできる能力。いわゆる「就業力」(図2参照)を持つ人材です。

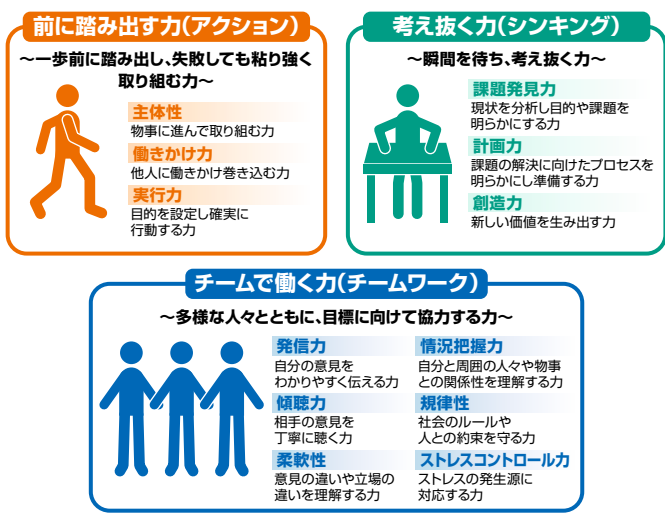
秋田大学では、文部科学省のサポートで、この就業力を育成する5年間のプロジェクトを平成22年度から開始しています。アカデミックな知識に加え、社会や企業での適応能力や変化への対応能力、更に

は問題解決力を涵養することを目的とした取組みです。社会人基礎力の育成に重点を置いたカリキュラムの開発、そして、学生の就業力を高めるための教育方法を、授業、ゼミ、実習、インターシッブなど、大学における様々な教育場面において取り入れます。

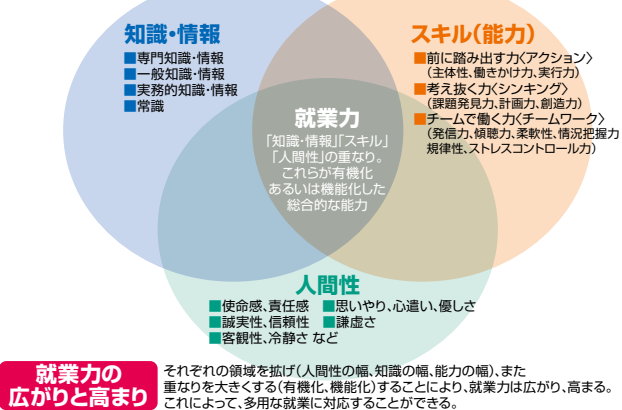
また、産業界・地域団体の有識者・著名人から成る「産学連携教育特別チーム」を構成して、学外の視点をから、就業力を育む教育を進めます。就職活動においては、テクニクやパフォーマンスだけでは、企業の期待には応えられません。能力に裏打ちされた就業力が必要です。

就業力育成は、キャリア形成、自立的な就職活動を経て、望ましい就職の実現へと導くものです。このプロジェクトが、学生たちの就職活動の充実に大きな力になるものだと考えています。「就業力の育成に重点を置いた大学教育改革」プログラム 特任教授 大野 勝好

〈図1〉 3つの能力/12の能力要素



〈図2〉 就業力とは



就業力の広がりが高まり それぞれの領域を担い(人間性の幅、知識の幅、能力の幅)、また重なりを大きくする(有機化、機能化)することにより、就業力は広がり、高まる。これによって、多様な就業に対応することができる。

「就活に臨む学生に何を期待するか」企業人に聞いた。



秋田大学理事(経営・就職支援担当) 町田 睿

急速な少子高齢化の進行で、この節、大学、特に私学は学生募集に苦勞しています。他方、学生の就職にも気を採んでいます。

就職先開拓や就職面接のノウハウ伝授など、大学の就職担当セクションは苦勞が多いことでしょう。

一方、採用する側は、「企業は人なり」で、企業の将来を託せる資質をもった後輩選びに力を入れています。私も人事部の採用係を督励するために、採用してから定年を迎えるまでの平均的人件費の累積を計算させたことがあります。一人三億円を優に超えていました。百人採用したら、三百億円の設備投資に相当します。採用係が企業間競争に営業部門以上に血道を上げる道理であります。

ところが、「優秀な学生」の定義が、大学側と採用側で、相当にズレています。大学側は得てして「成績優秀」に拘(だ)りますが、採用する側は、一定の学業水準は欲しいものの、それ以上に個人の性格や個性に拘ります。拘わる特性に企業の特徴が現れるのです。

協調性を大切にするチームワーク重視型の企業もあれば、粘り強い初志貫徹型(タイプ)を好む新分野開拓型の企業もあります。その企業の組織風土や文化の差です。

しかし、共通して絶対に採用したくないタイプがあります。当事者意識の欠けた青年(自分のことは棚に上げ世の中が悪いと思ふ癖のタイプ)です。ピンチをチャンスと捉える楽道家の方が好まれます。最も、最近では想定問答のトレーニングも行届いていないから、企業側も口頭試問で騙されないよう警戒しています。最近、インターシップを企業側が歓迎しているのは、職場を共にすれば短期間でも人柄や性格を掌握できるからなのです。

面接で私が一番聴きたいのは、学生生活で何を体得したのかです。アルバイト(社会性を身につけられること)から否定はしない)やクラブ活動の話しかできないようでは失望します。学生の本分をわきまえて、何に挑戦したのかを知りたいのです。自らを鍛えて成長した体験にこそ、将来の成長可能性を期待できるからです。

経験によって何を考え感じたのか、これからその経験や思いをどのように活かしていきたいか、自分の考えを持つておくことです。

当社の面接でも、何をやったのかという事実よりも、きっかけとなった思いや、過程によって得られたこと、過程におけるエピソードなどを求めています。就職活動にマニュアルは必要ありません。皆さんが経験したことや感じたことを相手に具体的にわかりやすく伝える、そんな能力が求められていると思います。それこそが、他の学生との大きな差別化になります。



株式会社ジェイティービー 人事企画部 米村 祐一

私もJTBグループの仕事は、旅や交流を通じて、お客様の喜びや感動を創出することです。どうしたらお客様は喜んでいただけるか、どのような方法がお客様の課題解決につながるかを日ごろから考え提案するために、JTB社員は常に感性を磨く努力をしています。

皆さんには、学生時代のうちから様々な経験・体験を通して、感性を磨いておくことをお勧めいたします。そしてその中で重要なことは、そ

かという点です。社会での仕事は、絶対的な正解があるものではなく、試行錯誤を繰り返しながら前進していくことが求められます。そこで必要なことはPDCA(計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)の略)サイクルを自分でまわすことです。これを学生生活のなかで無意識にでも実行している人は、社会人になっても仕事を円滑にすすめていける人だと思います。

仕事は与えられるものではなく、自分自身で創り出していくもので、そのために学生時代から主体的に考え、行動することが重要となります。

以上から就職活動とは、小手先の知識、面接手法を身につけて臨むものではなく、これまで歩んできた20年余における自らの成長を伝える活動だといえます。日々の思考、努力、行動の積み重ねが将来の自分を形成することを認識し、今日から意識を変え、有意義な学生生活を送っていただきたいと思っています。



株式会社秋田銀行 採用担当 山本 智春

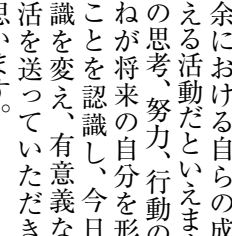
実際に社会に出てから活躍できる人材とは、過去に「充実したプロセス体験を持つ人」だと考えます。面接では過去の経験、行動事実、考え方を判断基準として、将来にわたり再現性があるかどうかをポイントに見ています。

将来、社会人として活躍するために、できるだけ早い時期から学生時代にしかできない経験をたくさん積んでください。その結果が大きな成果につながらなくてもいいのです。大切なことはどんな結果であれ、その過程で何を考えたか、どのような行動をとった

かという点です。社会での仕事は、絶対的な正解があるものではなく、試行錯誤を繰り返しながら前進していくことが求められます。そこで必要なことはPDCA(計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)の略)サイクルを自分でまわすことです。これを学生生活のなかで無意識にでも実行している人は、社会人になっても仕事を円滑にすすめていける人だと思います。

仕事は与えられるものではなく、自分自身で創り出していくもので、そのために学生時代から主体的に考え、行動することが重要となります。

以上から就職活動とは、小手先の知識、面接手法を身につけて臨むものではなく、これまで歩んできた20年余における自らの成長を伝える活動だといえます。日々の思考、努力、行動の積み重ねが将来の自分を形成することを認識し、今日から意識を変え、有意義な学生生活を送っていただきたいと思っています。



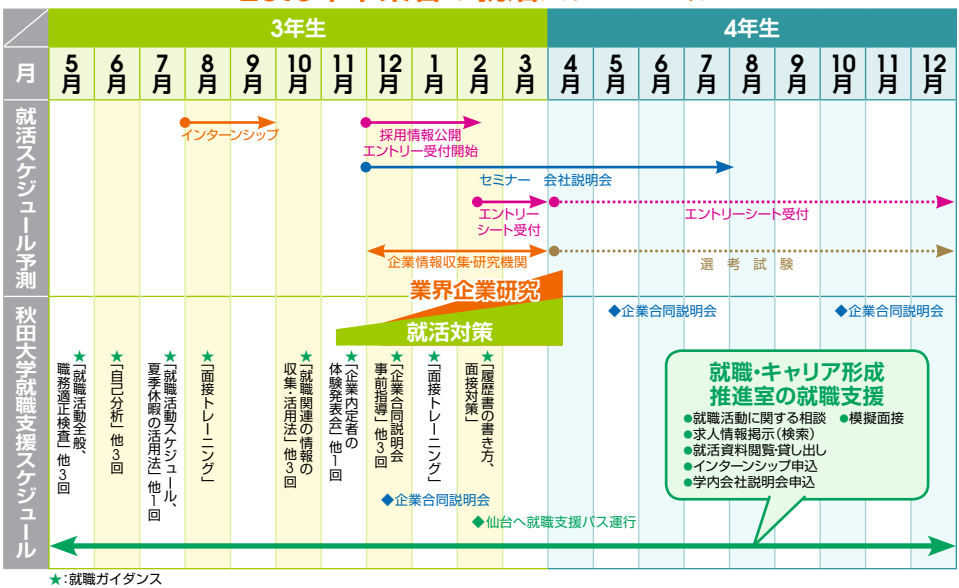
教育文化学部 4年次 永井 恵理香

「就活に臨む学生へ」 現役就活生に聞いた。

企業説明会では企業の方や他大学の学生と触れ合ったり、面接官に自分の考えを伝えたりすることを通して、自分自身が日々成長していると感ずることが多くあ

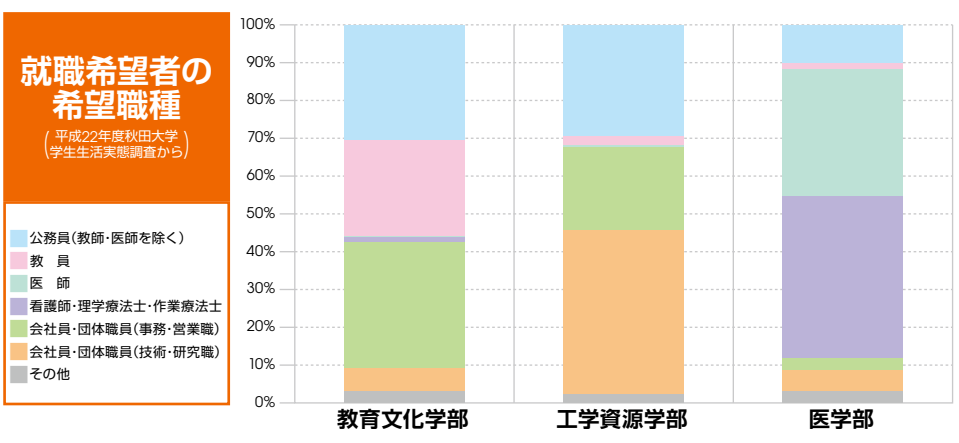
ました。また、普段の生活でも自分の欠点や短所などを変えていこうと意識したりすることで、就職活動のためだけでなく、これから社会に出てからも役に立つ経験ができたと感じます。嫌々やるのとは違って前向きにやるのでは、自分の心の持ちようだけでなく、結果も自然と違ってくると思います。

～2013年卒業者の就活スケジュール～



就職・キャリア形成推進室の就職支援

- 就職活動に関する相談
- 求人情報提示(検索)
- 就活資料閲覧貸し出し
- インターンシップ申込
- 学内会社説明会申込
- 模擬面接



就職活動で誰もが頭を抱えるのが自己PRです。何をどうすれば良いのか分からず、自分には長所がないと



工学資源学部 4年次 江澤 尚

が本格的に始まる皆さんには、何か一つでも自信をもってアピールできることや信念、軸などを大切にして、楽しみなが就職活動をしてほしいです。

言う就活生もいます。「それは絶対に嘘です」と私が代表を務める学生団体「RSJlead」が開催した「就活のバカヤロin秋田大学」で講師を務めていただいた石渡嶺司さんの言葉どおり、悩むのは時間の無駄です。自己PRの考え方や書き方を学び、実践することで、自分の長所に必ず気が付きます。秋田大学が行っている就活ガイダンスや各種団体主催の就活イベントなど、自己PRについて学ぶ機会が身近にあります。就活生の方々には、是非そういった機会を積極的に活用してほしいと思います。

未知との遭遇 遥か400キロ離れた宇宙と交信

「国際宇宙ステーション教育交信イベント」

日本人宇宙飛行士・古川聡さんら3人を乗せたロシアの宇宙船ソユーズが日本時間6月8日5時12分、カザフスタンのバイコヌール宇宙基地から飛び立ちました。ソユーズは10日未明に国際宇宙ステーション(以下ISS)とドッキング。古川宇宙飛行士は11月中旬までの約5カ月半、ISSに長期滞在する予定です。

ISSとの交信は午後9時25分から9時45分までの約20分間。スクリーンに古川宇宙飛行士が映し出されると会場からは歓声と拍手が沸き起こりました。古川宇宙飛行士には171件の

質問が寄せられ、児童・生徒20名が宇宙と医学に関することや宇宙での実験について代表して質問しました。古川宇宙飛行士は一つ一つ丁寧に回答。交信の最後には会場に集まった多くの子ども達へ「いろいろな事に興味を持ち、具体的な夢を持ってください。そして夢に向かって努力してください。みなさんの夢が叶うよう応援しています」とメッセージを送りました。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)ではこれまで同様のイベントを開催してきましたが、今回教育分野で対象となったのは秋田大学を含む5団体で、県内では唯一。イベント

秋田大学ではISSに滞在する古川宇宙飛行士とリアルタイムで交信するイベントを7月28日、60周年記念ホールで開催。児童・生徒、市民の方など約340名が集まりました。

秋田大学ではISSに滞在する古川宇宙飛行士とリアルタイムで交信するイベントを7月28日、60周年記念ホールで開催。児童・生徒、市民の方など約340名が集まりました。



「この国とこの星 私たち「はやぶさ」と日本人の心」

ト実行委員会の藤田静作委員長(秋田大学教育文化学部教授)は開催にあたり「イベントを機にさらに宇宙への関心を深め、将来、秋田から宇宙飛行士が誕生してほしい」と話しました。

この日は、交信イベントに先駆けて、「宇宙教育の父」と言われる的川泰宣氏(JAXA技術参与、NPO法人「子ども・宇宙・未来の会」会長)による講演会も開催。「はやぶさ」プロジェクトや宇宙教育について話しました。

地上から遥か400キロ離れた宇宙との交信。科学技術の進歩によって、かつて不可能だったことが可能となり、宇宙が少しだけ身近に感じられるようになりました。国際宇宙ステーション。私達が行ける日もそう遠くはないかもしれません。

「彼は地学が好きで自然現象への関心が高い生徒でした。ある日、休み時間に職員室の私の元へ走ってきて、「先生！空に環天頂アーク(大気光学現象の一つ)が出てます」と教えてくれた。彼は日頃から空を見てるんですね。それから川村准教授も空をよく眺めるようになったという。飛行機に乗るときは必ず窓側の席を指定する。

古川宇宙飛行士への質問とその答え

- 【質問】古川宇宙飛行士の笑顔の源は？
【古川さん】 みんなと気持ちよく仕事をしたいという気持ち。
- 【質問】原子力発電所事故の収束に関して宇宙技術が応用可能なものはあるか？
【古川さん】 すぐに応用可能なものはないが、宇宙にある放射線について実験をしている。
- 【質問】ISSに長期間滞在するに当たって、精神心理面の安定を保つためのケアはどのように行われているのか？
【古川さん】 運動したり家族と話したりストレスを溜めないようにしている。
- 【質問】将棋のドミノ倒しは可能か？
【古川さん】 倒すことはできるが、無重力のため地上のようにキレイにはいかない。
- 【質問】今まで行った様々なミッションを通して、自分自身が成長できたと思うことは何か？
【古川さん】 努力を続けて、昨日できなかったことが今日できたりすると、自信につながる。
- 【質問】いろいろな国の宇宙飛行士さんがいるが、どんな時に日本人らしさを活かすことができるか？
【古川さん】 国による違いではなく、個人の個性を尊重しながら仲良く仕事をしている。
- 【質問】宇宙飛行士になるために努力したことは？
【古川さん】 専門性をもつことが第一。それから各人が力を発揮できるようにチームワークを持つように努力した。
- 【質問】宇宙で病気になるためには、どのような方法や対策があるか？
【古川さん】 病気の元になるようなウイルスや細菌を持ち込まない。ISSの中でも運動をするなど健康を保つようにしている。
- 【質問】もし誰かを宇宙に連れて行けるとしたら、誰を連れて行きたいか？
【古川さん】 いろいろな国の首脳。宇宙でサミットを開いてほしい。
- 【質問】宇宙科学の研究について、将来的に期待していることは？
【古川さん】 宇宙の起源にせまることと月や火星、さらに遠くを目指すための技術開発。
- 【質問】地球では、太陽の動きで朝と夜が分かるが、宇宙ではどうやって分かるのですか？
【古川さん】 体で感じる。体内時計が働いているからだと思う。
- 【質問】最も感動した体験は？
【古川さん】 宇宙に来てから初めて地球を見たとき。とても美しく、このかけがえのない地球を大切にしなければと感じた。

(質問一部抜粋)

研究室から

地球を科学する



川村 教一 准教授 Kawamura Norihito
教育文化学部/教科教育学講座 専門は理科教育・地学教育・自然災害教育

3月11日、東日本を襲った大震災。自然の猛威と恐怖をまざまざと見せつけ、私達に大きな衝撃を与えた。

大震災以降、防災意識が高まり、児童・生徒への防災教育の必要性が声高に叫ばれている。「地球とそこに起こる現象を理解することは、自然現象に対する防災を考える手立てになります」

そう話す川村教一准教授の専門は理科教育。最近では防災教育の研究にも取り組んでいる。

「防災教育は教科としては学校のカリキュラムに組み込まれていない。教科教育における防災の学習については地学領域の地震や火山の単元で触れる程度です」

地学の教材は地球とそれを取り巻く環境。気象や天体、地質や岩石など自然を総合的に学ぶ科目だ。台風や地震、火山など自然現象が起きる仕組みについても取り上げ、

防災教育の一躍を担う科目として注目されている。川村准教授は理科教育のなかでも地学教育を専門とする。秋田に来る前は四国・香川県の高校で教鞭をとっていた。現在も高校に向かい地学の授業を行う機会があるが、震災以降、防災に関する授業のあり方について思案しているという。

「以前は自然災害の映像を見せて、怖さを全面に押し出した授業を行っていました。そうすると、高校生からはどうしたら災害を防げるか、災害から逃れられるかという防災対策を知りたいというニーズのみが高まってしまっている。それは理科教育ではないんです。今更ながら理科の授業で自然現象の怖さを強調するだけではダメなんだと気付かされました」

6月、川村准教授は被災地・岩手県へ視察に行った。そこには想像を絶する惨状が広がっていた。

「理科ではよく実験・観察が大切といいますが、被災地に行ってみて、やはり事実を見るのが大切だと感じました。だから一人でも多くの理科教員に現地の様子を生で見せてほしい」

もともと水晶などの鉱物が好きだったという川村准教授。「秋田は昔、鉱山があった影響でいろいろな石が採れる。秋田に来る前はお金を出して石を買おうという邪道な事をしていたのですが、今では自分で採りに行ける良い所に来たなと思っています」

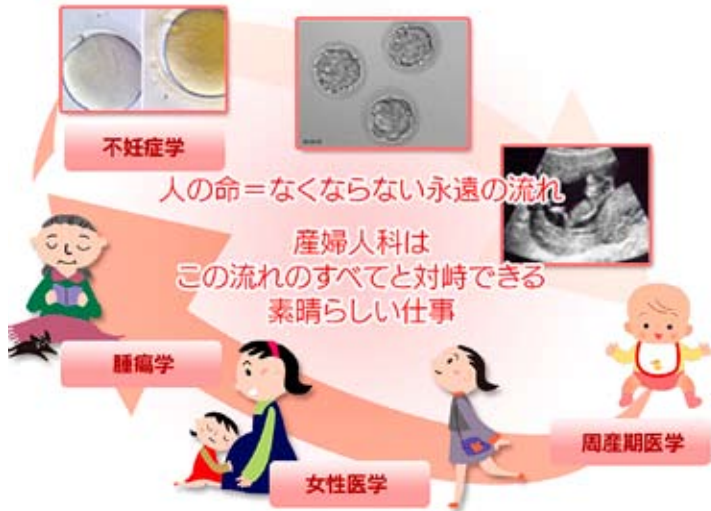
「彼は地学が好きで自然現象への関心が高い生徒でした。ある日、休み時間に職員室の私の元へ走ってきて、「先生！空に環天頂アーク(大気光学現象の一つ)が出てます」と教えてくれた。彼は日頃から空を見てるんですね。それから川村准教授も空をよく眺めるようになったという。飛行機に乗るときは必ず窓側の席を指定する。

「地学に対する情熱は彼の方が上。彼のような地学に対する情熱を忘れてはいけません」と話した。

命のながれない

産婦人科の仕事

新しい命の誕生は、まさに感動のドラマ。その一部始終を見守るのが、産婦人科医の仕事です。少子高齢化と人口減少時代に突入した我が国において、生命の誕生に直接関わる産婦人科医が担う役割は大きくなっています。



子どもが欲しいと思っても、なかなか授からない夫婦は少なくありません。不妊症の夫婦は、かつて10組に1人と言われていましたが、今や7組に1人と言われています。

また、同じく増えているのが、35歳以上の初産をさす高齢出産。自然妊娠率は、

20歳代をピークに低下をはじめ、30歳代、40歳代と加齢的に低下します。加齢により妊娠成功率は下がっていきます。そして、赤ちゃんを生むという事は、命がけの作業でもあります。加齢は、妊娠中や分娩時に、母体へのリスクも高めます。「それでも、なんとか赤ちゃんを産みたい」その思いに応えるため、産婦人科医は、全力で患者と向き合います。

産婦人科医の寺田幸弘教授は「産婦人科医療では、配偶子から始まる人の命の流れの中で展開される様々なシーンに出会います。それぞれの体は世代ごとにかわっていきまわりますが、命そのものは無くなると実感します」と話します。出産したらそれで終わりというのではなく、産婦人科医には、女性の一生を視野にいれたケアが求められるのです。日本の産婦人科の医療技術は、ここ数年で飛躍的に進化。今では世界トップ

秋田大学医学部附属病院 産婦人科外来
産婦人科外来は外来棟の一階奥に位置しています。診療は新患(初診)、婦人科再来、産科再来、生殖内分泌(不妊)再来の4診で行っています。再来はすべて原則時間予約制です。この他に特殊外来として、更年期外来を開いています。

- 受付:月～金曜日 午前8時30分～午前10時30分
- 休診日:土日祝祭日・年末年始(12月29日～1月3日)
- 【産科外来】 ☎018-884-6368 【産婦人科外来】 ☎018-884-6367
- http://www.med.akita-u.ac.jp/~obgyn/index.html

レベルと言われているほどです。昔なら助からない命を、救えるようにもなりました。ところが、救う技術の進化は、産婦人科スタッフへの負担減少には繋がっていません。むしろ、負担が増えているのが実情です。

産婦人科医の不足。これが、もつとも深刻な問題となつていきます。お産は救急医療。医師がいなくとも待つてはくれません。救急搬送されながら、受け入れ先の病院が見つかからないという、妊婦の「たらいまわし」が社会問題となったこともあります。さらに、健康で生まれて当たり前という風潮。万が一、異常でも生じれば、医療ミスを疑われます。それらが、産婦人科医離れに拍車をかけているのが現状です。

「女性の医師が安心して働くよう、出産や育児をサポートできる環境づくりを進めていかなくてはならない」と寺田教授。せめて女性医師が、自らの出産を機に退職していく流れに歯止めをかけた、と考えています。

産婦人科医の仕事は非常に過酷です。それでも、寺田教授は、「産婦人科医は、素晴らしい仕事。生涯をかけて、女性が安心して妊娠・出産に望める環境をつくっていきたい」と話します。

産婦人科医の疲れを癒してくれるのは、元気に生まれてくる赤ちゃんの姿と家族からの「ありがとう」という言葉。新しく生まれる生命と、その母体となる女性を支え続けています。いつまでも、産婦人科医の力を必要とする人たちがいます。

病院と患者さんのかけ橋

相談支援センター

「退院転院後の生活についての悩み」「医療費の支払いや経済的な不安」「治療に関する素朴な疑問」。医療に関する悩みや不安を抱えている患者さんやご家族は少なくないと思います。



相談支援センターのスタッフ
(前列左から)小川MSW、廣川センター長、佐藤看護師長

秋田大学医学部附属病院の相談支援センターでは、患者さんやご家族に対する医療・福祉相談等の医療支援を行うとともに、地域医療機関とも密接な連携を図り、適切な医療を提供できるようにサポートしてまいります。

「治療において、退院はゴールではなく、あくまでも通過点。退院後の生活が重要」とMSWの金子幸太さんは退院支援の重要性を指摘します。入院生活はあくまでも非日常生活。退院後の療養環境が不十分だと、病気が再発してしまうこともあると言います。「私たちは、できる限り患者さんの希望に添えるように、社会保障制度や福祉サービスなどの情報収集と提供を行い、より安心して療養生活を送れるように、患者さんの生活支援も行っています」とMSWの小川江美さんは話します。

今年度、相談支援センターが重点的に取り組んでいる事業として、5大がん(胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん)の秋田県統一地域

秋田大学医学部附属病院 相談支援センター
相談支援センターの受付は、受付待合ホール3番入院案内になります。

- 受付:月～金曜日 午前9時～午後5時まで
- 休診日:土日祝祭日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ☎018-884-6283、6229 ●FAX.018-884-6564
- 電子メールアドレス:sodans@hos.akita-u.ac.jp
- ※相談時間(対面・電話)は原則30分とさせていただきます。
- ※相談費用はかかりません。
- ※ご相談内容につきましては**秘密を厳守**いたします。

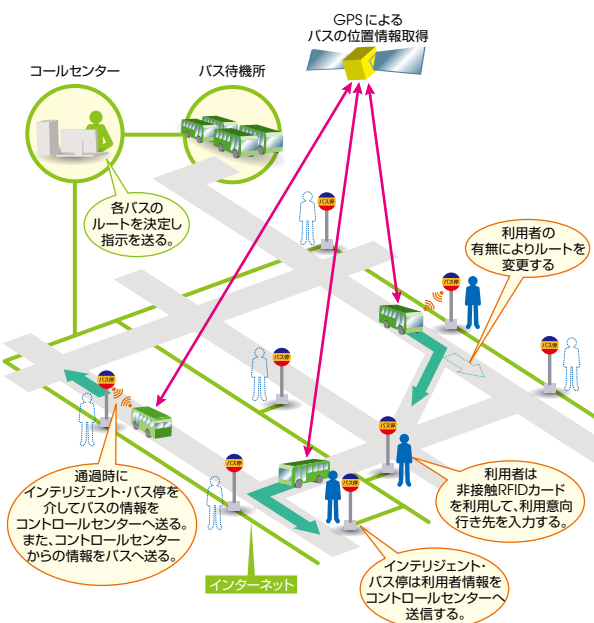


新しい公共交通機関の実現を目指して —短距離無線技術を活用した フレキシブル・バスシステムの研究—

徐々に廃止される路線バス

高齢化と人口減少が進む地域社会において、路線バスやローカル鉄道等の廃止によって日常の移動手段が奪われるという深刻な問題が生じています。特に自家用車を利用できない高齢者が、病院などに行こうとしても、タクシー以外に利用できる交通手段がないと、経済的に大きな負担を強いられることとなります。一方、バスや鉄道を運営する会社にとっても、利用者の減少や自治体からの補助の削減で大きな赤字を抱え、路線の縮小や廃止は経営上やむを得ない措置なのです。現行の路線バスは、利用者の有無にかかわらず決められたルートとスケジュールで運行するため、利用者の少ない路線では効率が悪くなりますが、かといってコスト削減のために運行本数を減らすと、利用者の利便性が損なわれ、利用者が益々減少するという悪循環に陥ってしまいます。

提案システムの概念図



「DRRTとフレキシブル・バスシステム」 こうした状況を打開するため、利用者にとつての利便性と低コストを両立させる新たな公共交通機関の実現を目指した研究を進めています。我々が提案するフレキシブル・バスシステムは、利用者の意向(デマンド)を把握する手段を設け、それに応じてバスを運行することで、利便性と効率を両立させようというものです。利用者のデマ

ンドに応じて運行する類似のシステムとして、路線バスが廃止された地域の代替交通(たとえば、通院専用の乗り合いバス)や空港利用客のための乗り合いタクシーとして導入されているDRRT(Demand Responsive Transport)があります。これは目的の地や運行エリアが限定されていたり、予め電話などで予約する必要がある場合がほとんどで、利便性はあまり高いとは言えません。「フレキシブル・バスシステム」は、バス停に利用者が到着した時点で「どこへ行きたいか」を入力してもらい、その情報にしたがって複数のバスを効率的に運行することを特徴としており、秋田市のような中規模都市のエリア全体をカバーする新たな公共交通機関となるこ

とを目指しています。現在、エリア内に設置されたすべてのバス停に到着する利用者のデマンドを、中央制御システム(コンピュータ)に集め、できるだけバス停での待ち時間や乗車時間を短くするようにバスを運行するためのアルゴリズムを検討しています。非常に複雑なシステムですので、現実的な運行アルゴリズムを見いだすのは容易ではありませんが、様々な運行方法を探った場合の待ち時間や乗車時間、バスの利用効率(平均乗車数や運行距離)等を、専用のシミュレータを試作して評価しています。

「バス運行アルゴリズム」

また、乗客のデマンドを的確に把握すると同時に、利用者によるバスの運行状況や予

大学院工学資源学研究所
教授 行松 健一
(通信ネットワーク工学)

研究室から

「情報の蓄積」を支える

高谷 眞弓 助教 Takaya Mayumi
大学院工学資源学研究所/情報工学専攻/専門分野は「計算科学」



度は5回目の更新になる。情報通信技術の現状や、これまでの情報教育システムの運用経験を踏まえながら開発を進めている。高谷助教は秋田出身。秋田工業高等学校の電気工学科を卒業後、民間のソフトウェア会社に勤務していた。入社して15年間、大型計算機のデータベ

「日進月歩」の情報工学

情報工学専攻では、次世代の情報処理技術を通して社会に貢献できる技術者を育成すべく、コンピュータの進化とともに教育研究プログラムを日々更新しなくてはならない使命がある。最先端の知識が明日に一般常識となる世界だからだ。実習を重視した教育を行ううえで必須である「情報教育用コンピュータシステム」を管理・運営しているのが、情報工学科数理情報工学講座の高谷眞弓助教。このシステムは約5年ごとに最新の機器に更新され、今年

前職時代に誘われたハイキングで見た、尾瀬の景色に魅(み)せられたのがきっかけで、登山が趣味になったという。秋田大学の有志で作られた「山の会」にも所属し、県内外の山々を楽しんでいる。「今度の3連休に北アルプスにいくんですよ」と、小学生が遠足に行くときのような笑みを浮かべた。情報教育用コンピュータシステムで、安定かつ継続的なサービスを提供すべく、不正アクセスの防止やデータの保全に努めながら、高谷助教が今一番、力をいれているのが「データベースの構築」だ。データベースとは、一カ所に集められた情報基地にアクセスすればすべての情報(Data)が得られるように、点在していた膨大な量の資料をひとつの情報基地(Base)に集約して効率化を図るといふもの。「膨大な情報がシステムに蓄積されても、効率よく取り出せなければただのゴミ箱」と構築に挑む意欲をみせる。最初にタオルがこの夏のスタイル。「冷感タオルいいですよ、1500円でちよっと高いけど」。高谷助教の飾らない姿に学生は親しみを感じている。

サークル紹介

club activities

サッカー部



「今年の一歩の目標は東北大サッカー部の一部へ昇格することですけれど、やっぱり狙っているのは天皇杯の県代表の座です」と、秋田大学サッカー部代表の清水匠さんは話します。

サッカー部は、4年生を入れて25人。現在は東北大サッカー部2部で、1部昇格の座を狙っています。

主力メンバーは2年生。3年生以上になると学部や学科の勉強が忙しくなり、なかなか活動に参加できなくなるそうです。清水さんも3年生ですが、多忙の中、主力選手の一人として活躍しています。

人手が足りず、部内で11対11の試合をする際は4年生にも参加してもらわなければなりません。また、今年から監督がついてくれて、だいぶ楽になったそうです。選手登録や保険加入といった事務的な仕事も、代表や副代表自ら行っているそうです。

昨年、グラウンドが人工芝化して、プレーするには最高の環境が整ったのもつかの間、追加工事が始まるため7、8月は横浜市などのグラウンドを借りての練習になります。練習場所を転々としながら集中力を維持するのは、なかなかきついです。

決して恵まれた環境とはいえませんが、清水さんたちが掲げる目標は、自らを追い込むような「チャレンジ」でもあります。

実際に練習中のグラウンドを訪れてみると、和やかな雰囲気でしたが、清水さんとマネージャーの指示のもと、てきぱきと行動し時間を有効に使っていました。また、声を出してプレーの要求をし、よいプレーをしたら互いをたたえ合っていました。彼らは競技に対してとても真剣で、少なくともグラウンドの中ではプレーに対する「おごり」はありません。それを無意識に自覚していたからこそ、清水さんはあのような大きな目標を掲げられたのではないのでしょうか。

さらに清水さんは言います。「天皇杯の決勝で、ブラウブリッツ秋田(JFLのクラブチーム)と戦いたいです。そして、勝ちたい」

未来はすでに始まっています。歴史に名を残すような、とんでもないくらい活躍を私は期待しています。

秋田大学報道局(AUP) 佐藤

ものづくり創造工学センター

学生自主プロジェクトの紹介

センター長 神谷

修 Kamiya Osamu

秋田大学学生宇宙プロジェクト(ASSP)

新年度に入り、ものづくり創造工学センターでは平成24年度の学生自主プロジェクトの公募を行いました。その結果、昨年度から継続しているものを含め、10件のプロジェクトが採択されました。新規採択プロジェクトも徐々に紹介していきます。

さて、今回は、昨年から引き続き採択されている「秋田大学学生宇宙プロジェクト(ASSP)」をプロジェクト代表で工学資源学部機械工学科3年の川端洋君に紹介してもらいます。ASSPはものづくり創造工学センター開所

時から活躍しているプロジェクトの一つです。夢のあるプロジェクトですのでぜひ応援してあげてください。

「学生宇宙プロジェクト」代表の川端です。私たち学生宇宙プロジェクトは、主に工学資源学部の学生が集まり、自らが製作したロケットと人工衛星を宇宙軌道に乗せることを目標に活動しているプロジェクトです。ロケットの製作では3D CADに代表されるような設計ソフトを用いて設計し、旋盤やフライス盤などの工作機械で材料を加工して学生が作っています。また、電子回路もはんだ付けから、プログラミングまで自分達で行っ



ています。このプロジェクトは、2006年に発足して以来、13機のロケットを打ち上げ、7つの模擬人工衛星の実験を行ってきました。

した。さらに近年では、テレビや新聞に取り上げていただけるようになり、活動の幅を広げています。

今年度は、「でかいことやろうぜ!」をスローガンに活動しています。今年度の新しい試みとして、自作ハイブリッドロケットエンジンの開発、海に向かってロケット打ち上げ、翼型模擬人工衛星の開発等が挙げられます。ハイブリッドロケットエンジンの開発は、昨年度から、世界で秋田大学しか研究していない燃料を用いて実験を繰り返して、ようやく製作までこぎつけることができました。これが完成すれば、日本の学生団体で2番目の自作エンジンとなりま

す。ハイブリッドロケットの海に向かっての打ち上げは全国初の試みであり、翼型人工衛星も他大学で製作している団体は多くありません。このように、私たちは誰も行ってない研究や、前例がないことにチャレンジし、普通の学生生活では考えられないような経験ができています。詳細は下記のHPやブログにも掲載しているので、興味のある方はぜひご覧ください。

- ASSP_HP <http://www.assp-jp.com/>
- ASSP_ブログ <http://assprocket.blog100.fc2.com/>

Column

文章力up



「自他共に認める容姿端麗」

一度でいいから言ってみたいものです。こんな表現を、本番のエントリーシートで読みました。一読した私は、黙々と採点作業を続ける同僚を招集。仲間たちは「面接に呼ばう」と大騒ぎしていました。私が、「不」のコーナーに用紙を回しました。

設問は「あなたのアピールポイントをお書きください(自分のどんな点が当社で活かせるかなど)」というものでした。

新聞記者の採用試験でした。容姿端麗の方がいいとは思いますが、記載事項が事実なら、もっと活かせる仕事がありますよね。実は「脚線が特に自信がある」とも書いてあったのです。うーん。面接に呼ばなかったのは、やはり失敗だったのでしょうか……。

この設問には「落とし穴」がたくさんあります。以前にもこのコラムで書きましたが、「持ち前」とか「コミュニケーション能力」とか「元氣」といった、わかったようでわからない

い表現を、ついつい使いたくなってしまふ恐れがあるからです。

そして「自分のどんな点が当社で活かせるか」というくだり。冒頭に例示した「容姿端麗」もそうですが、自分の「良さ」が独りよがりではなく、社会に通用することなのか、というかなりシビアな質問が盛り込まれています。大学時代の専門が活かせるというのではなく、ちよっとおかげさかもしれません。が「資質」が問われてもいるのです。

のことに夢中になれる人だとしたら、もしくは、全力で学生時代に打ち込んだことがあったのなら。

まず、何に夢中になったのかを短く記載する。そして、そのことにのめり込んだ自分の姿を書く。何が自分を夢中にさせたのか。その間に、自分の「好奇心」を育てるために、どんなことを試みたのか。そして「一番大切な」が、その「夢中」になったことを通じて、何を感じて、何を考えたのか。結論が「面白かった」では、独りよがりになってしまいます。一つのことに懸命に取り組み姿の中に、「もがいて」いる部分も欲しい。ふと感じる懸命さに、試

験官は「意欲」を感じ、あなたの「可能性」を見いだすはずです。

でも、社会では必ずしも自分の「興味」あることだけがテーマになるわけではなく、苦手なことでも、最初は興味があつたことでも、逃げずに向き合うことが時として求められます。

興味のあることだけをやって、給料も欲しい。そんな方は企業という選択肢ではなく、社会から隔絶した孤高の研究者を目指すしかない。それも道ですが、こちらもなかなか険しいようです。

秋田大学企画広報課長 (元朝日新聞記者) 高橋 康弘

第51次日本南極地域観測隊

2009年～2011年へ参加して —南極圏・別世界で過ごした1年115日—



技術部 技術専門職員 二部 恒美

2009年11月24日成田空港を出発。豪州パース空港へ降り立ち、本隊より一足先に東京晴海を出航していた砕氷艦しらせとフリーマントル港で合流して南極昭和基地へ向かいました。フリーマントルを出港して3日目の12月3日には初氷山を視認。その後の船旅では何度かアデリーペンギンやアザラシが船周辺の流水帯に現れ、観測隊員やしらせ乗組員らを和ませてくれました。



で昭和基地のある東オングル島へ上陸しました。その日から昭和基地での第51次日本南極地域観測隊の生活が始まりました。昭和基地周辺は南極でもオーロラの出現頻度の高い地域にあり、雲のない天気の良い夜には星空に広がる幻想的な景色を眺めることができました。

観測隊は、夏隊員と越冬隊員がいて、夏隊員は昭和基地で約2カ月活動して帰国。越冬隊員は、日本を出発して1年4カ月後に帰国となります。夏・越冬隊員合わせて約80名は到着してすぐそれぞれの行動計画に基づき活動が開始されました。その活動支援には、しらせ乗組員(海上自衛隊員)が活躍します。

でも屋であり、28名での越冬に関する日々あらゆる面で隊員のサポートが主な業務でした。毎日の生活に必要なことや物品などの他に月別業務に関わる事柄、例えば、日直など各当番の割り振りなどに追われる職務で、隊員みんなの協力がなければ、なかなかスムーズにいかない?気を使う役どころでした。このようなことは、平日頃経験していることとは違い、集団母体そのものが初めての人間関係で多少なりともストレスを感じた人もいました。

休日は島内散策をしたり、スケートを楽しんだり、自由に過ごすことができました。また昭和基地へ来訪することは珍しいコウテイペンギンが6羽現れ、驚かされました。

「徒然草」を題材に授業

公開授業
教育文化学部
附属小学校

「法師が、立派な寺の僧侶らしからぬ失敗を犯してしまつた原因はどこにあったのだろうか」

「徒然草」の第五十二段を教材にした六年生の国語の授業がこのほど、教育文化学部附属小学校で行われました。公開授業や協議会を通して、学習・指導方法について考える公開研究協議会の一コマ。今年の研究主題

は、「かかわり合いが育む豊かな学び」。教材・仲間・教師・自分自身など、様々なことかかわり合いながら学ぶことを通して、子ども一人一人の思考力・判断力・表現力等を高める授業づくりに取り組みました。

700年前も昔に書かれた古典の原文を読み解くことは、子どもたちにとって決して簡単なことではありません。時代背景など最低限の知識がなければ、解りできないこともあります。だからこそ、「なぜ?」「どうして?」という素朴な疑問を子どもからたくさん引き出すことが出来るのでは

と考えました。

県内外の教員や教職を目指す学生が数多く参観する中、子どもたちは、原文の言葉や表現にこだわりながら、法師の人物像を読み深めていました。

公開研究協議会は、附属小学校をはじめ、他の附属学校園でも開催しています。日程、その他の詳細については、それぞれの学校のHPでご確認ください。



秋田大学竿燈会

毎年8月3日～6日に開催される国の重要無形民俗文化財「竿燈まつり」には、秋田大学竿燈会も参加している。今年も竿燈の季節がやって来た。責任者の三浦敏秋氏(工学資源学研究所職員)に話を聞いた。

昭和46年。教職員をメンバーに秋田大学竿燈会が発足しました。今年で連続41回目の出場になります。現在は差し手23人、お囃子22人(うち女性15人)で活動しています。毎年7月1日から祭りまでの1カ月、梅雨空を気にしながら集中的に練習しています。

竿燈は竹竿と紙(提灯)で出来ていて、長さは平均12m重さは約50kgです。差し手はそれを手のひら・額・肩・腰などで支え上げますが、初めはなかなか安定しません。竿を揺らさずに静止させるには、かなりの練習が必要です。

お囃子は1台の太鼓を2人でたたいて笛と合わせ、竿燈囃子の勇壮な「流し」を演奏して行進し、賑やかな「本囃子」で差し手を盛り上げます。

差し手は高下駄を履き、あるいは腰に竿を乗せながら巨大な扇を広げる高度な技を披露し観客を沸かせます。

昼の「妙技会」には選抜されたメンバーが大若団体規定:自由、個人戦、囃子方の4種目の競技に挑みます。

昭和54年個人戦優勝。平成7年・8年・20年には大若団体自由優勝。平成9年には囃子方優勝をするなど、竿燈会の「実力」は妙技会でも

裏付けされています。

教育文化学部附属特別支援学校の生徒と、竿燈の演技指導や行事などで交流し、夜の祭りにも毎年一緒に参加しています。

毎夏、皆さんの応援を有難く感じています。参加希望の教職員の方は、気軽に声をかけてください。お待ちしています。竿燈は、観るより「演(や)る」ほうが楽しい祭りなので、ぜひ。



秋田大学へようこそ

中学生の大学見学

中学生の頃、大学のキャンパスをイメージできましたか？高校生へのあこがれを抱いても、大学生活まではイメージできなかったのでは？

「中学校の図書館へ案内し、勉強がはかどりそう」など充実した設備に驚いていました。また学内に設置されたATMを見て「どうして大学に銀行があるんですか？」と中学生らしい質問も飛び出し、良い意味でカルチャーショックを受けていました。中学生の大学見学について、引率された教員に話を伺うと、大学で学ぶ姿を見学することで、中学生の進路に対する意識を高め、夢や希望をもって意欲的に学習に取り組む姿勢を育成したいと話します。実際、中学生からは大学の雰囲気を感じたことで、高校を卒業したら大学に進学したいという声も聞かれました。

2009年の大学進学率は50.2%(学校基本調査)。



秋田大学では上級学校訪問や職場見学など総合的な学習への支援の一環として、小・中学生の大学見学を随時受け入れています。この日も県内の中学校から中学生2年生6名が見学に来ました。大学の第一印象について尋ねると、「広い!」「人も建物も多い」「自由な感じがする」など、初めて入った「大学」に興味津々の様子。

見学では、はじめに職員が秋田大学の学生数や授業カリキュラムについて簡単に説明。中学生からは時間の立て方やサークル活動

東日本大震災義援金を寄附しました。

秋田大学は、東日本大震災の被災地復興支援に役立ててもらおうと、学生・教職員から募った義援金総額341万58円(904件)を日本赤十字社へ寄附しました。

義援金の募集は震災後間もない3月14日に決定し、3月16日から4月28日までの約1か月半の期間で行いました。学部を問わず附属病院、



目録贈呈の様子(秋田県庁にて)
 <左>吉村昇秋田大学長、
 <右>佐竹日本赤十字社秋田県支部長(秋田県知事)

留学体験記

ルーマニア文化研修を終えて

教育文化学部人間環境課程2年

濱田 俊太郎

ルーマニアについて

ルーマニアといわれて何かパツと思いきや、人は少ないかもいれませんが、日本から飛行機の直行便はなく、フライトフルト経由で16時間程かかりましたから、やはり遠い国です。

ルーマニアはモルドバ、ウクライナ、ハンガリー、セルビア、ブルガリアの5カ国も国に囲まれており、有名ビア、ブルガリアとは、有名なドナウ川を境界としています。平均気温は日本より低く、僕らがブカレストにいた3月の始めはまだ雪が降っていて、研修中はコートが手放せなかつた記憶があります。人口は2146万人。我々が過ごした首都ブカレストは約200万人で、日本と言うと札幌や名古屋の人口に近いことになりました。

ブカレストの街を歩いてみると、首都の賑わいの中に自然公園などの憩いの場や教会、修道院といった美しい建物が点在し、ルーマニア人の信仰深い一面にも触れることができました。

ブカレストでの活動内容

ブカレストの日本人学校を見学しました。外国で働く日本人教師の姿を見ることは、海外勤務を身近なものにし、教職に対する幅を感じさせてくれました。海外研修というところ、どうして

も現地の人々との交流をイメージしますが、私はルーマニアで出会った日本人から得たこともたくさんありました。ブカレスト大学で建築を学んでいる日本人学生、1か月間世界中を回っているという東京大学の職員。興味深い話をたくさん聞くことができ、自分の物差しが大きさを覚えてくれたと思います。

また、私が一番驚いたのはブカレストの学生は皆一様に語学能力が高い事です。研修ではブカレスト大学の英語とルーマニア語の特別授業を見学した他、高等学校で英語授業の見学、日本語授業の補助等を行いました。一緒にノウハウがきっかけで、背景には西側への留学等が得意な中で、外交官やスパイの育成、また国外での就職を考えざるをえないといった現実的な問題も側面としてはありました。ただ、5カ国語を話せる学生や、日本語能力試験1級を取得した高校生には感心させられました。

表として国際交流指定校との交流を促進すること」が目的のひとつとされており、国際学会への参加や英語による日本文化のプレゼンテーション、留学フェアでのPR活動など貴重な経験もすることができました。

研修に参加した私たちの中で共通していたのは、ルーマニアの人々は優しく温かいということでした。私が3時間も道に迷った時、人に聞かされた「フランス語は分からないのか?」「ルーマニア語を話せ」と言いつつも一生懸命に教えようとしてくれる人々に会いました。また、ブカレストを起つ時には10人もの学生達が見送りに来てくれたことは思い出し、深いです。何も知らずに怖いだけとか、ステレオタイプに任せていうことは簡単ですが、しかし、行ってみて初めて分かること、またその先に見えるものがあることをこの研修が教えてくれました。「異文化は自分を映す鏡だ」と先生のいった意味が少しだけわかった気がします。



研修に参加した仲間と(左から2人目が濱田さん)



海外留学を希望される方は

国際交流課(一般教育1号館2階)、各所属学部の学務担当へお問い合わせください。秋田大学の国際交流については大学HPからもご覧いただけます。

【秋田大学HP/国際交流】
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/index.html>

July 2011.07

平成23年度科学研究費補助金採択決定一覽(新規採択分)

Main table containing grant details including researcher names, department names, grant titles, and funding amounts (direct, indirect, total) in thousands of yen.

*平成23年6月30日時点で本学に在籍する研究代表者の採択状況、交付申請を辞退(重複制限のため)・留保(育児休暇等のため)した課題を除く。所属・職名は平成23年6月30日時点のもの。

海外渡航

【教職員の外国出張・海外研修】(一ヵ月以上)

所属・職名・氏名	渡航目的	渡航先国	渡航期間	備考
工学資源学研究所 環境物質工学専攻 助教 和嶋 隆昌	海外派遣(マイアミ大学にて共同研究のため)	アメリカ	23.3.23~23.8.23	平成22年度秋田大学研究者海外派遣事業による出張
工学資源学研究所 機械工学専攻 准教授 巖見 武裕	海外派遣(ブルーネル大学にて共同研究のため)	イギリス	23.10.1~24.5.31	平成23年度秋田大学研究者海外派遣事業による出張
工学資源学研究所 地球資源学専攻 准教授 山崎 誠	海洋調査のため	アメリカ北太平洋	23.8.11~23.10.4	出張

※外国出張と海外研修の届け出があったもののうち、一ヵ月以上の渡航を対象とする。前回掲載分を除き出発日が決定している渡航を記入。

海外渡航(学生)

【学生の派遣事業等】

事業名または経費	留学先大学名(国名)	渡航期間
秋田大学医学部医学科交際交流基金	短期海外学修/リール大学(フランス)	23.6.6~23.7.1
学生氏名	医学部医学科 [3年次]長谷川 諒 [3年次]張替 宗介	
秋田大学医学部医学科交際交流基金	短期海外学修/カリアリ大学(イタリア)	23.6.5~23.7.1
学生氏名	医学部医学科 [3年次]井上 聡美 [3年次]佐藤 佑樹 [3年次]高橋 和紀子	

※前回掲載分を除き出発日が決定している渡航を記入。個人的な私用での渡航は除く。

教育研究プログラム等採択状況(平成23年1月7日~3月31日採択分)

制度名	プロジェクト名	事業期間(年度)	交付金額等(単位:千円)	所属・事業代表者
(独)科学技術振興機構(JST) 戦略的創造研究推進事業(CREST) 分担	メゾスケール超伝導の結晶構造・内部構造及び幾何学配置による新奇特性の基礎理論構築	19年度~23年度	650	教育文化学部 准教授 林 正彦
(独)科学技術振興機構(JST) 戦略的創造研究推進事業(CREST) 分担	地下水涵養源としての湖沼の役割評価と湖沼低質の水浄化機構の解明	21年度~23年度	2,600	教育文化学部 准教授 林 武司
総務省 東北総合通信局 戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)	短距離無線技術を活用したフレキシブル公共交通システムの研究開発	22年度~23年度	10,578	大学院工学資源学研究所 教授 行松 健一
経済産業省 地域イノベーション創出研究開発事業 再委託	アケビの機能性食品素材及び化粧品素材としての研究開発	22年度~23年度	693	教育文化学部 准教授 池本 敦
(独)科学技術振興機構(JST) 研究成果最速展開支援事業(A-STEP【シーズ顕在化タイプ】)	PZTセンサーを用いた新生児心雑音診断モニターの開発	22年度~23年度	1,207	大学院医学系研究科 教授 尾野 恭一
環境省 平成22年度環境研究総合推進費 再委託	介入研究の評価に関する研究	23年度	136	大学院医学系研究科 教授 村田 勝敬
総務省 北海道総合通信局 ICTグリーンイノベーション推進事業 再委託	低消費電力光IPルータ基本技術の研究開発	23年度	683	大学院工学資源学研究所 教授 行松 健一
農林水産省 平成23年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 再委託	木橋施工技術の開発	23年度	1,727	大学院工学資源学研究所 准教授 後藤 文彦
第40回(平成23年度)三菱財団助成金(人文科学部門)	四川省甘孜藏族自治州で話されているチュウ語の記述言語学的研究	23年度	800	国際交流センター 准教授 西田 文信
(財)中島記念国際交流財団助成 平成23年度留学生地域交流事業	する・聞く・語る 秋田の農業 in 西木町	23年度	1,002	秋田地域留学生等交流推進会議議長 秋田大学長 吉村 昇
(独)科学技術振興機構(JST) 科学コミュニケーション連携推進事業「機関活動支援」[草の根型プログラム]	天文サイエンスカフェの開催	23年度	予定額 100	教育文化学部 技術専門員 毛利 春治

※競争的資金の23年度新規採択分のうち、追加内定分があったものを記入。前回掲載分を除く。学部にあつては、学部から直接公募機関に申請し、採択となったものを記入。前回掲載分を除く。

は「工学」にも関わらず、学部名称は「鉱山」のままです。しかし、文部省からこの時「鉱山」は取り敢えず「すね」と念を押され、94年の博士課程設置時に大学院設置審議会から「鉱山学研究所」の名称は教育・研究内容にふさわしくないのでは今後検討する必要がある」と指摘されました。

96年春から時々委員以外のメンバーを加わった学部将来計画委員会は学部名につけた人材養成の観点から「グローバル化」の観点から「グローバリゼーション時代の資源学」を、工学系が先端技術の発展を支える観点から「社会の要請に応える人材養成」と、地域社会の特色を活かした産業への貢献を目指す観点から「地域社会への積極的な貢献を掲げました。そして、新学部は資源系と工学系の二分野が教育・研究上の交流を通じ、二つの系が一学部で存在する特長を活かすにつ

素材工学と材料工学の教育・研究内容が受験生を含めて外部から理解されにくいことが明らかになりました。両学科とも教育内容に異なり、学科毎に基礎科目が異なり、学科内からは教育・研究上の効率が悪いと指摘されてきました。これらの問題達成のためと新学部の理念達成のため、両学科を地球資源学・環境物質工学・材料工学

(以下次号に続く)

秋田鉱山専門学校
まもなく
創立100周年
No. 23
名誉教授、学芸員(鉱業博物館元館長)
北光会 丸山 孝彦
元事務局長

地球資源と環境科学の先駆
MINING COLLEGE
1912.10.1 ~ 2012.10.1

1987年10月~11月に開催した 鉱業博物館特別企画展「鉱山学部87年史」のポスター (千田恵吾学芸員・技術専門職員撮影)

98(平成10)年4月に教育 学部と鉱山学部が改組され、教育文化学部と工学資源学部が誕生しました。今回は新 学部誕生時に行われた学部 改革を中心に述べましょう。 以前に書きましたように、60年代後半から学部内 で学部名称変更が議論されて きました。この議論は学 部改組・再編時に大きな問 題へ発展せず、90年と翌年 の改組・再編で誕生した情 報・機械・電気電子・土木環 境工学科の教育・研究内容

称・新学科・教育学部からの 分属教官の配置など多岐に わたる問題を議論し、教授 会で検討しました。同年秋 に行なった学部教官へのアン ケート結果では94%の教官 が学部名称変更を支持して おり、「工学部」「理工学部」 や、環境・資源に関わる工学 の特色を表した「人間環境 科学部」「地球工学部」など の名称が上がりました。約 2年後にまとまった新学部 の理念に、資源系が伝統あ る資源学に加え国際性を身

学技術の発展に貢献するこ ういう意味から、名称は「工 学資源学部」と決まりました。 こうして国内唯一の「鉱山 学部」は消え(写真参照)、や はり国内唯一の「工学資源 学部」が98年4月に誕生し ました。

学部名称や理念の議論 と並行して、当初は新学科 設立が検討されました。96 年10月に秋田県内の理系高 校生や進路指導担当教員 あるいは企業などを対象に 行ったアンケートで、資源 科の3学科に再編すること になりました。 なお、学年進行に合わせ て鉱山学研究所は4年後に 廃止され、02年4月に工学資 源学研究所が設置され、博 士後期課程の専攻数は3専 攻から4専攻に増えました。 91年6月の大学設置基準 改正の中で一般教育と専門 教育の枠組みが取り外され、 秋田大学は93年から教育科 目を総合基礎教育科目、基 礎教育科目及び専門科目と しました。この時の一般教 育改革はその趣旨が 徹底されないままに 移行しましたが、全 学教官出動体制によ る教養基礎教育の改 革と教育学部改組が 進展すると共に、教 育学部教官の分属先 が問題となりました。 特に少子化に伴う教 育学部の教員養成 部門の縮小と新課程 の設置は避けられな い状況にありました。 教育学部を主体とし た秋田大学と文部省 との度重なる検討の 結果、新しく発足す る教育文化学部の入 学定員を減らし、工学資源 学部が20名を受入れ、同時 に教育文化学部から教官2 名が移行しました。さらに 教養基礎教育を担当してい る教育文化学部の一部教官 を医学部(3名)と工学資源 学部(14名)に分属させ、入 学時から卒業時まで学部や 学科毎の教育理念や目標に 基づく指導を行うことにな

〈催し物〉……………

秋田大学 オープンキャンパス2011

高校生とその保護者を対象とするオープンキャンパスを手形・本道の両キャンパスで開催。入試説明、模擬授業、研究室の公開などを行う他、今年は「副学長とのランチミーティング」や「学食体験」などの企画も用意。

- 8月7日(日)10:00～
- 手形キャンパス
(教育文化学部・工学資源学部)／受付9:00～
- 本道キャンパス
(医学科・保健学科)／受付9:30～
- 参加無料、当日の参加も可能
- 秋田大学入試課 ☎0018-889-2256

平成23年度 秋田大学子ども見学デー ～大学ってどんなところ？ 家族といっしょに大学生！～

大学内の見学や体験を通じて、大学に対する関心を深めてもらう「秋田大学子ども見学デー」を開催。

- 8月23日(火)9:10～12:00
- 秋田大学60周年記念ホール
- 参加無料、要申込 ☎018-889-2270

秋田大学FDシンポジウム 「学びの技法について考える」 ～大学が変わる 教え方が変わる そして学生が変わる～

生徒の意欲、自立性を高めることを主眼に、獨創性のあるユニークな教育を実践している現役の小中学校教諭を講師として招き、教育のあり方・教育の方法について学ぶ。

- 8月23日(火)15:30～18:00
- 秋田大学60周年記念ホール
- 参加無料 ☎018-889-3057

群馬大学・秋田大学連携 グローバルCOEプログラム 「生体調節シグナルの 統合的研究」 第5回グローバルCOE 若手研究者シンポジウム

- 8月30日(火)13:00～18:00
31日(水)9:00～12:00
- 秋田キャッスルホテル 矢留の間
- 参加無料 ☎018-884-6467

第14回 秋田メディカル・サイエンスカフェ

阿部寛教授(秋田大学大学院医学系研究科医学専攻病態制御医学系 形態解析学・器官構造学講座)が「解剖学実習と献体」について話す。

- 9月4日(日)14:00～15:30
- 秋田市民交流プラザ・アルヴェ きらめき広場
- 参加無料、申込不要 ☎018-884-6008

〈講座・講習会〉……………

平成23年度秋田大学公開講座 「地域環境とインフラの旅」

私たちが日常生活を営む都市や地域社会。そこでは、誰もが安全、安心、快適に生活できる美しい空間の創出が望まれている。講座では、そのために必要とされる社会資本(インフラストラクチャー)の整備理念について解説する。

- 8月8日(月)～9月26日(月)毎週月曜日(全6回)
18:30～20:00(初日・最終日は20:10まで)
- カレッジプラザ
- 受講料3,000円、要申込
- ☎018-889-2270

◆◆◆ 著書紹介 ◆◆◆

ロール・プレイ 理論と実践

〔著〕クリシヤ・M・ヤルド
レイ・マトウエイチユク
著(現代人文社、2011
年3月刊)
〔翻訳企画〕井門正美
〔監訳〕和泉浩
〔訳〕若原保彦



秋田大学ゲーミング・シミュレーション研究会が、理論研究の一環として、マトウエイチユク氏の「Roll Play: Theory and Practice」を翻訳した。ロール・プレイという技法は、心理学や教育学などでよく使われるが、この定義、目的、方法論などを解説した文献は意外と少ない。本書は、これまでのロール・プレイ実践の歴史を振り返りながら、ロール・プレイの再定義をし、技法の構築を目指すものである。

研究と臨床、訓練の実践において、現在使用されているロール・プレイ技法、そしてロール・プレイに関するこれまでの概念的説明について考察。客観的および主観的な基準で検証された、厳密なロール・プレイの誘導手順を示す。

ただ、著者のマトウエイチユク氏は、臨床心理学系の専門家。現実から切り離れた場の仮想性を強く意識しているが、翻訳企画者の井戸正美教授は、現実から仮想までのロール・プレイを対象の理解と問題解決に活用すべきと考え、「役割実践法による「ロール・プレイ」の再構築」を提唱している。

アートとデザインの 構成学 — 現代造形の科学 —

〔著〕〔編〕森竹巳
〔著〕穂積毅重／森香織／
常見美紀子／後藤雅宣／
森竹巳／織田芳人／森脇
裕之／星加民雄／和田直
人／石井宏一



「構成学がなぜ造形にとって不可欠なのか、造形とどのような関わりがあるのか」

本書は、構成学の理論と展開を中心に論じた専門書である。

様々な物質から形ある物を作り出す「造形(そうけい)」。

21世紀を迎えた今日、アートやデザインの造形を取り巻く環境は拡大した。かつて予想もなかった造形素材の出現やテクノロジーの進歩により、造形に対する考え方も変容している。造形を取り巻く環境が複雑になればなるほど、それらの表現領域が拡大すればするほど、造形の基礎は重要性を増して行く。

著者は、これまでの構成教育の長い現場経験を通して、現代の造形環境にふさわしい構成学理論の必要性を痛感し、本書を刊行することに至った。

本書は、専門知識を望む読者だけでなく、幅広い読者にも対応できるよう平易な表現と明快な論議でまとめられている。造形の完成を育てる教育指導書や関連講義の副読本として、これからの造形を学ぶ入門書としてもお薦めだ。

■ 国立大学法人秋田大学の役職員の報酬・給与等について

〈公表内容〉

I 役員報酬等について

- 1 役員報酬についての基本方針に関する事項
- 2 役員報酬等の支給状況
- 3 役員退職手当の支給状況

II 職員給与について

- 1 職員給与についての基本方針に関する事項
- 2 職員給与の支給状況

III 総人件費について

IV 法人が必要と認める事項

〈主な概要〉

1. 役員報酬及び教員給与の年間総額 (単位: 千円)

役員	報酬等総額
学長	17,383
A 理事	13,732
B 理事	12,812
C 理事	12,975
D 理事	13,266
監事	10,699

2. 人件費総額 (単位: 千円)

職員	年間平均給与
平成22年度	14,088,625
平成21年度	14,079,099
比較増△減	9,525 (+0.0%)

平成22年年度に係わる本学役員の報酬等及び職員の給与水準の資料を本学ホームページに公表しています。
http://www.akita-u.ac.jp/honbu/publication/pu_legal.html

編集 後記

かつての時代のとは違い、現在の就職活動は、かなり厳しいものとなっていきます。これから社会に出ようとする学生にとっても、確かに理不尽な事かも知れませんが、ですが、厳しいからこそ、自分を成長させるチャンスでもあります。

今回のアプリーレでは、大手企業の人事担当者等からメッセージをいただきました。「企業の求めるスキル・人材とは。そして何を意識しながら、大学生活を過ごすべきか」

学生には、そんな事を少しでも感じてもらえたらと思います。

社会に出れば、如何に多くの事を学ばなくてはならないか気が付きます。就職活動は、社会人としてのスタート地点。決してゴールではありません。スタート地点で手を抜けば、必ず生涯にわたり後悔することになります。学生の皆さんは是非、全力で就職活動に望んでください。

就職活動に欠かせないエントリーシートの書き方を伝授する「文章力UP」の連載も要チェックです。

今回の表紙は、医学部保健学科3年次の椎名美咲さんです。秋田大学卒業生のご協力もいただきました。ありがとうございました。(福)

● アプリーレの由来

「アプリーレ」とは、イタリア語で、「開く、開ける」という意味です。「積極的に秋田大学の窓を開放することを意識して名付けられました。」